西暦	和暦	巻数	分野	目録	細目	目次題	作者	本文題	本文頁	作者-2	備考
0737.06.30	天平九年六月	21	政事	橘諸勝文		典薬寮橘諸清方勅文	縁	典薬寮勅旨橘諸方書	482	物部鹿麻呂	
0749.12.30	天平勝宝元年	17	仏事下 付法僧	施入諸請文		聖武天皇封戸水田等施入勅願文		奉施入 封戸五十戸水田一萬町	433	勝浦は聖武上皇の法名	『東大寺全集調査文』の裏面部分 識文には「賓客等二千戸・新薬師寺三百戸」部分ナシ
0752.04.09	天平勝宝四年四月九日	16	仏事上	東大寺大佛文		聖武天皇東大寺大佛願勅願板文		東大寺大佛殿構新板文	390		
0753.01.15	天平勝宝五年正月十五日	16	仏事下 付法僧	施入諸請文		聖武天皇勅願文		聖武天皇勅願文	432	勝浦は聖武上皇の法名	『東大寺全集調査文』の裏面
0784.07.28	延暦三年九月八日	7	携 東	奉納興福寺賢勝撰		藤氏南家新興福寺賢勝撰	大納言清行中務卿藤原朝臣継縄	奉納興福寺賢勝撰	178	大納言正三位兼行中務卿藤原朝臣継縄撰上	継縄は藤原南家武智麻呂
0806.01.28	大同元年正月二十八日	20	異國	異國根本朝人伝記		唐國興徳法大事大聖高徳遠伝記		異國根本朝人伝記	457		日本国初官正五品上兼行鎮西府大監高階真人遠成
0816.06.19	弘仁七年六月十九日	17	仏事下 付法僧	沙弥空海上表		僧空海表	沙弥空海上表	弘法大師請入空海於高野事表	423	弘法大師空海	
0824.09.03	天長元年九月三日	9	政事	大政官符		大政官符	藤良多	停多 為諸大国国事	265		参議太常大式従四位下の野朝臣峰守の解に依る
0831.09.25	天長八年九月廿五日	16	仏事上	受法之師事		円澄大師受法之師事	傳燈大法師位圓澄	受法之師事	398	理事寺求法弟子圓澄能赤大阿者型	伯別当大納言正三位兼行陸奥守藤原三守 参議正四位下守右大将藤原冬定大納言源朝臣
0831.09.25	天長八年九月廿五日	16	仏事上	円澄大師受法之師事		弘法大師傳		帝位相応弘法大師也	398		
0838.12.15	承和五年十二月十五日	2	文事中	綸起		像賛等綸起		広恵寺綸起 平事公寺、一名綸岡寺	37		相越大寒明怖未遂 大別當傳灯大法師位寂能 少別當傳灯大法師位道昌 法頭朝原宿祢明吉 傳灯住位惟恵幕 寺主傳灯満位信愛安
0846.12.30	嘉祥元年冬	1	文事上	字別詩		字別詩	清原真友	字別詩	4	清原真友	千年間真時入年代記名も名真時は一字
0848.12.30	嘉祥元年冬	1	文事上	字別詩		字別詩	源 順	字別詩	4	源 順	補略源氏源定の冒頭 従五位上和泉守・能登守
0854.04.03	仁寿四年四月三日	16	仏事上	補天台座主官旗		傳灯大法師圓仁	左大史泰永幸	門仁天台座主補任官旗	395		
0863.01.11	貞観五年正月十一日	16	仏事上	石清水宮記		石清水八幡宮護国寺略記	傳灯大法師紹行教	石清水八幡宮護国寺略記	392		
0884.02.16	貞観六年二月十六日	16	仏事上	天台座主宣命		大法師安宣	勅使良年経世	安恵天台座主補任宣命	395		
0884.03.14	貞観六年三月十四日	12	内記	伯記		位記例状		位記例状宣旨	320		
0886.07.12	貞観八年七月十二日	17	仏事下 付法僧	僧侶請状				傳教大師請状勅書	424		
0886.07.12	貞観八年七月十二日	17	仏事下 付法僧	僧侶請状				慈覚大師請状勅書	425		
0976.02.07	貞観十八年二月七日	11	延釈	設入為治病自本所乞請		陸人説所後者依本所請申給蔵	円蔵経藏原安世	進物所給奉中文	266	左衛門尉後権助	掌侍賀茂定子
0878.04.28	元慶二年四月二十八日	12	内記	勅符		封賦典勅符	都良香作	鹿早渡封賦典事	297	都良香	
0882.09.30	元慶六年九月	1	文事上	銘		右大臣銘銘	菅原大相国	右大臣銘銘	12	菅原道真	「本朝文粋」所収 右大臣は明源氏藤多
0885.01.21	仁和元年正月廿一日	1	文事上	序	句題詩序	早春内裏百花宴詩	菅 原相	句題詩序	7	菅原道真	「菅家文草」によれば仁和元年正月の仁寿殿に於ける内宴となる 時に道真は従五位上加賀権守式部少輔文章博士41才
0888.05.06	仁和四年五月六日	22	諸国雑事上	諸国奉預祭文		国守信紀山神文	菅原	陸奥山神文	526	正五位下国紀守菅原朝臣道真	
0890.08.05	寛平二年八月五日	17	仏事下	施入状		藤原良房造子菅根等連署任園施入構	四嗜後藤原朝臣菅根	藤原庄菅原	430	美濃一巻郡・長尚一巻郡（藤原南家）	別当左少将藤原敦忠・左少将藤原朝臣敦忠
0893.06.15	寛平五年六月十五日	11	延釈	補別当菅宣旨		検非違使別当藤原朝臣弘道	右衛門権佐藤原朝臣弘道	以参議正四位下行右衛門督藤原朝臣貞勝為 検非違使別当	256		藤原時平が大納言従三位左近衛大将に為ったのは「公卿補任」によれば寛平九年、源貞恒が右衛門督となったのは「公卿補任」によれば寛平九年である
0897.07.13	寛平九年七月十九日	12	内記	宣命		勅宣宣命書類	小野美材	勅宣 醍醐天皇生母藤原高子	307	小野美材	陸奥大将藤原高子父正三位中納言藤原高藤に年後の昌泰元年に没した 彼宮内卿十世王 在原棟梁
0898.11.21	昌泰元年十一月廿一日	2	文事中	祝言		皇子誕生賦祝文	紀 納言	第三皇子知元服祝文	34	紀 長谷雄 従四位下文博士式部大輔兼相文章博士	「本朝文粋」所収 平李天皇第三皇子敦仁親王誕生の際に作った祝賀文
0898.11.21	昌泰元年十一月廿一日	12	内記	詔		朋且冬至詔	従五位下守中務少輔藤原 宣孝行	朋且冬至	293	中務少輔藤原 宣孝行	醍醐天皇詔 大納言藤原時平 権大納言菅原道真
0899.10.24	昌泰二年十月廿四日	2	文事中	書		今上奉流法皇詔書	紀家作	今上奉寄法皇詔書号御書	41	右大弁紀長谷雄	太上天皇の尊号を辞退してきた宇多上皇が10月20日「御尊号」の後24日「後堅入道」と「紀略」にある
0899.10.30	昌泰二年十月	2	文事中	書		詠法皇尊号御書	紀家作	詠法皇尊号書	41	右大弁紀長谷雄	朱雀院は高時宇多上皇の御所であった
0905.07.21	延喜五年六月二十一日	2	文事中	書		法皇詠村戸詩書	紀家作	法皇詠村戸書	41	右大弁紀長谷雄	法皇は宇多法皇
0908.03.05	延喜八年三月五日	11	延釈	補別当菅宣		検非違使別当藤原任宣旨	左衛門尉在別刀宗名	以中納言兼左兵衛督平朝臣惟範為 参議使別当	256	右大臣源光宣	右大弁紀長谷雄傳文 右大史大春日朝用仰
0908.11.11	延喜八年十一月十一日	4	朝儀上	離宮院雑舎請雑宮符		離宮院雑舎請雑宮符	左大臣藤原時平宣	唐請雑離宮院雑舎四子事 山城国号	105		正二位左大臣兼左大将藤原朝臣時平宣
0910.12.30	延喜十年	22	諸国雑事上	紀任国解文		加賀紀任国解文		新竹国 加賀国在職官人雑任等	503		
0910.12.30	延喜十年	22	諸国雑事上	諸国雑事上		場料帳文書	藤原朝臣	新竹国料物事	507		延喜十年？
0911.06.16	延喜十一年六月十六日	3	文事下	記		李子院頌酒記	紀 納言	李子院頌酒記	61	中納言従三位紀長谷雄従二十二年三月69才で没去	「本朝文粋」所収 「有一病因、不飲鴆酒、具見行事、走筆記之」 宇多法皇・仲平・源新・業茂・保胤・経邦・良峰遠現・伊衡・平希世
0912.04.08	延喜十二年四月八日	1	文事上	銘		鹿原谷銘	鹿原谷利	能持寺銘銘	13	僧都権少鹿原谷利 高岡・山陰・公利	鹿津鹿角下郡 千手観世音菩薩像
0913.12.30	延喜十三年冬	1	文事上	文		紀銘賛文	紀家良	紀銘賛文	22	三善清行 847～918	史部良利作慈恵一式部輔大輔「故治要略」所収
0915.03.21	延喜十五年三月一日	8	除書	熊野権官元宣相雷料符		熊野権官元宣相雷料符	従五位下少納言内記藤原朝臣良文	熊野権官元宣相雷料	213	従五位下民部少輔藤内記藤原朝臣良文	神祇官相
0920.03.10	延喜廿年三月十日	20	異國	本朝異聞人伝歌 位記		陸治異聞人伝歌 位記		治異聞大使信部少輔従三位歌	459		
0920.03.22	延喜廿年三月二十二日	11	延釈	遠 赤遠使於遠国		遠検赤遠使遠国官宣旨	大史紀淮興宣作	為既治海客舎時屋使骨発遠於越前国	286	大史紀淮時高行	中納言兼左衛門督藤原清貫宣 遠検赤遠使於遠国
0924.01.22	延喜二十年正月廿二日	12	内記	宣命		仕太臣宣命書様		任大臣	311		藤原忠平の任官文は任官大臣・藤原定方の任右大臣は延長2年1/22
0925.12.14	延喜二年十二月十四日	21	博文上	任諸國五畿上記官符		外従五位下行大史安信信曜忠行	諸国百畿上記官符	諸国百畿上記官符	475	参議左大弁藤原朝臣忠平宣 五畿七道諸国符	正二位左大臣兼左大将藤原朝臣忠平宣
0928.04.29	延長六年四月廿九日	17	仏事下 付法僧	諸僧書		稲千日諸僧書	小野都知舞奉	小野都知舞奉	416	小野都知舞	
0928.05.03	延長六年五月三日	17	仏事下 付法僧	御所寄殿				天台座主意悲端千日供奉状	421		
0932.04.18	承平二年四月十八日	11	延釈	近検遠相宣		右衛門尉奈生村生保範奉	近 遠相	右衛門尉奈生村生保範奉	268	右大史長信信内宣旨	大納言藤原朝臣在衡傳宣 右大史長信信内宣旨
0933.04.03	承平五年四月三日	11	延釈	中検非違使私馬行宣旨		左大史大納言菅崇奉	中検非違使私馬行宣旨	中検非違使私馬行宣旨	270	右大史大納言菅崇奉	大納言藤原信信在 権右中弁藤公信傳宣
0935.12.04	承平五年十二月四日	11	延釈	遠都押使宣旨		左衛門少志尉高有安奉		遠都押使宣旨	295	左衛門少志尉高有安奉	従三位中納言左衛門督藤原朝臣敦忠
0935.12.30	承平五年	1	文事上	序	後宮序	新撰後宮序	紀 貫之	新撰後宮序	8	紀 貫之	醍醐天皇の命を受けて任地土佐で選じた和歌集の序
0936.03.13	承平六年三月十三日	15	内記	宣命	書様	伊勢斎王十宮宣命書様		伊勢斎王 十宮	308		陸王子東太智師四品聖明法王 第十女王
0938.08.13	天慶元年八月十三日	7	携 東	詩読故表		藤忠平詩読故表	江相公作	点信公詩読故表	187	文章博士従五位上式部少輔紀伊権介大江維時	大政大臣従一位藤原朝臣上表
0938.08.14	天慶元年八月十四日	7	携 東	詩読故表		勅答		藤原忠平詩読故表勅答	187		朱雀天皇勅答
0943.04.22	天慶六年四月廿二日	2	文事中	願文		在原氏願文	後江相公	在原氏願文	29	大江朝綱	在原氏の願文は「本朝文粋」の「在原氏願文」 藤原忠平の任官文は「日本紀略」
0945.12.30	天慶八年	15	内記	作	詩序	大江時綱序	大江時綱	日観集序	7	大江維時	天慶九年四月前坊平之氏に正四位下に「日観集」は村上天皇の命による10人の漢詩集
0946.02.20	天慶九年二月廿日	2	文事中	願文	仁王豊明願文	延喜中仁王豊咒願文		作者豊後人	32	豊後人	
0946.12.30	天慶九年十二月三十日	12	内記	宣命		任天台座主宣命		任天台座主 権律師法橋人	312		第十五代天台座主権律師延周 加賀国江沼郡人橘来氏
0947.07.08	天慶元年七月八日	2	文事中	願文		清高明王祈礼母願文	作者源 順	礼母清子敬白	30	源 順	右大臣藤原朝雄女を母とする清高明正親で天慶元年七月八日以前に生まれた子は「尊卑」に見えない
0950.02.20	天暦四年二月廿日	22	諸国雑事上	諸国雑事上		下総守藤原朝臣有行	従五位下下総守藤原朝臣有行	諸国雑事天慶四年為先例進行所官使	315		
0950.04.10	天暦四年四月十日	17	仏事下 付法僧	知識文		延喜中講堂造建知識願		延喜知識分寺免ごと村木造講堂一字宗	436	菅原国四所衆	
0950.04.10	天暦四年四月十日	17	仏事下 付法僧	知識文		延喜中講堂造建知識願		欲被知識分和魂造講堂一宇状	437	諸大臣主衆	
0950.04.11	天暦四年四月十日	17	仏事下 付法僧	知識文		延喜中講堂造建知識願		欲被知術野中遥之材木造建講堂一宇状	435	菅原衆	
0950.06.17	天暦四年六月十七日	22	諸国雑事上	諸国雑事上		造講堂上郡芝開郡貢賦等		造講堂郡内芝開郡長解 年立貢賦宗地参文書	469		貴人内覧従七位下紀部郎 貴人主計史生紀伝七位上御船夜鶴
0950.08.01	天暦四年八月一日	1	文事上	啓		延喜中奉賀啓者給立啓		延喜中奉賀啓者給立啓	24	延喜中傳啓大法師良勝 沙門延昌	僧有は村上天皇至子憲平親王は「冷泉天皇」母右大臣藤原師輔女安子
0951.09.30	天暦五年秋	2	文事中	春行		宣旨春行文		陸徳公和国所別宣命御筆宣旨春行文	35		陸徳公一藤原朝臣 924～972 天慶五年九月一日 参議大蔵卿式部少輔 父右大臣藤原師輔母武蔵守藤原経邦女盛子
0952.03.02	天暦六年三月二日	22	諸国雑事上	申押造検使押領使		越前國所押造検使押領使申文		陸奥押止造検使押領使等状	513		同年十一月八日従二位右大臣兼右大将藤原朝臣師輔宣、春勅依請
0952.04.27	天暦六年四月廿七日	3	功労	右京諸職文		右京諸職文中文	作者大江朝綱	諸職賞文雲山等者武蔵国守藤原朝臣	253	従四位位上左大弁兼勘解由長官伊勢権守大江朝綱	従五位下武蔵国守藤原朝臣保実
0952.06.23	天暦六年六月廿三日	15	陪膳道	四角四隅祭使役道宣宣旨		四角四隅祭使役道宣宣旨	大史阿倍朝雄	陸奥国津外四所鬼気悪共界等人 山城国	380	義人頭従四位上右大弁兼内蔵頭参議権先兼修理大夫	右大臣藤原朝雄
0952.08.15	天暦六年八月十五日	12	内記	詔		聖徳不陵詔	従五位下中務少輔紀朝臣 宣泰行	聖徳不陵 朱雀上皇 可大政天下	295	中務少輔紀朝臣	「本朝皇胤紹運録」によれば朱雀上皇は8月15日崩御「日本紀略」は天文期間
0952.11.09	天暦十年十一月九日	22	諸国雑事上	造計使宣旨		神領使宣旨		摩山流造静平為神領使、令造師都内、造菜事	512	従四位位下行左中弁播磨国守兼行	出雲国解 紀二位右大臣藤原朝雄宣
0955.01.04	天暦九年正月四日	2	文事中	表		法花経講表白	紀中音主	天皇法花経講問答表白	41	右大臣紀長谷雄	天慶九年村上天皇
0955.10.08	天暦九年十月八日	16	仏事上	授戒儀		清涼殿授戒儀		延暦寺真人忠裕	401	従四位下右京大夫兼内蔵頭藤原朝臣	園分寺宣
0956.04.21	天暦十年四月廿一日	16	仏事上	授戒儀		出雲國授戒儀	正六位上行博士紀野朝臣	東大寺戒壇院例 欲被意授戒沙弥元証之状	402	従五位下守平朝信	園分寺宣旨
0956.08.13	天暦十年八月十三日	22	諸国雑事上	造検使宣旨		造検使宣旨	左大史	意以敬従従七位上平可公授法、令造師都内造菜	512	正五位下左中弁藤原朝臣文範	近江国解 従二位右大臣兼右大将藤原朝雄宣
0956.08.21	天暦十年八月廿一日	22	諸国雑事上	陸河国所以下寄稲申文		陸奥国雑国所		陸奥国雑国所、令国所申郡郡雑役状	310		敬河国所郡 申国 賀能勝 十月廿一日中納言藤伊賀、奉勅、依請
0958.08.13	天徳二年八月十三日	16	仏事上	授戒儀		安楽院授戒儀	権博士善春朝	延暦寺戒壇院例 欲被授意授戒列国分寺僧尼住	401	従五位下行安良守三善真人是風	
0958.08.30	天徳二年八月	3	文事下	笠銘		笠銘賛	紀中書王	笠銘賛二通	43	中納言正三位源 兼明	
0958.10.27	天徳二年十月二十七日	12	内記	宣命		立荒宣命書様		立荒	306		女御従二位藤原安子父右大臣兼右大将藤原師輔母武蔵守従五位上藤原経邦女岡兼家
0959.02.07	天徳三年二月七日	15	陪膳道	内舎点		勅寧賀宣忠行	賀茂宣行勅点	賀茂忠行勅点以外職奏珠	382	陪五位上賀茂忠行 賀茂俊重父	賀茂俊重父
0959.12.30	天徳三年	26	諸國公文中	解由	巻物解由	周防國司巻数解由		周防國司解 申解前司解由事	532		正六位上行介周防宿禰正
0961.06.20	応和元年六月廿日	8	除書	省丞依直書他勅文東帰参勅		式部省省丞依直書他勅文東帰参勅書	従四位下行少輔大江朝臣重光	諸職省省丞不依伴任文第依直書他勅文東	209	大枝時等一二	
0961.08.05	応和元年八月五日	8	除書	省丞依直書他勅文東帰参勅		右大臣源左殿勅宣小野勅参	右大臣源左殿勅宣小野勅参	式部省丞不依伴任之次第、依直書他勅参	209	大外記源左殿勅宣小野勅参	
0962.03.22	応和二年三月二日	8	除書	中務省丞勅		中務省丞勅	正六位上行少内記藤原朝臣周頼	中務省解 申進大蔵勅参	207	正四位上行式部大輔兼従二位藤原朝臣	従五位上行大炊頭兼陸奥守藤原朝臣光平
0962.03.25	応和二年三月二十五日	2	文事中	咒願		咒願文	作者式部少輔菅原輔正	仁王豊咒願文	31	菅原輔正	作者式部少輔菅原輔正
0963.06.09	応和三年六月九日	12	内記	宣命	書様	祈雨奉幣宣命		祈雨	313		
0965.05.25	康保二年五月廿五日	22	諸国雑事上	任銘守所 伏官符		任銘守所 伏官符	左少史宮吉恭綱	銘守所将軍従五位下源朝臣信孝 伏	514		正六位上文章貴人参証 正六位上這分方行
0966.05.27	康保三年五月廿七日	21	博文上	詩	書様	秘馬生産詩		中貴持国 上皇五十賀馬模本	480		陸為時朝臣持世七才
0969.10.28	安和二年十月廿八日	17	仏事下 付法僧	施入諸請文		藤原在衡願封施入諸請文		弟子右大臣従二位藤原朝臣在衡	431		奉施入稲刹王十領（甲斐二十五領 福島二十五領）在衡女は村上天皇皇子敦平親王母 この年8月13日薨亡時王朝位（母安子）
0970.07.13	天禄元年七月十三日	12	内記	勅		右大臣贈位勅	中務大輔左大臣源朝臣	贈左右大臣藤原朝臣 可従二位 順内舎人左右近衛、以為随身	296	左大臣従二位藤原在衡 右大臣従二位藤原伊尹	右大臣藤原伊尹は園融天皇生母安子兄
0971.04.05	天禄二年四月五日	22	諸国雑事上	諸司中改路次勘任國		出羽守橘時舒改路次中文	従五位上行出羽守橘朝臣	陸奥国官員勘注新例、橘朝臣時舒実施道、准正道赴任国例	509	従五位上行出羽守橘朝臣時舒	
0973.06.26	天禄四年五月六日	15	陪膳道	内典勅文		東宮傅藤原為勅文	主計頭賀茂朝臣俊憲	為大進朝臣、敬令造立可忠勅恩書	367	主計頭賀茂朝臣俊憲	
0974.09.07	天延二年九月七日	15	陪膳道	犯土勅文		賀茂保憲犯土禁忌勅文	主計頭賀茂朝臣俊憲	勅申隔恵犯土禁忌歩数	366	主計頭賀茂朝臣俊憲	
0974.12.18	天延二年十二月十八日	17	仏事下 付法僧	諸僧書		祈傅名諸僧書	左中弁兼摂勅原朝臣佐理	内裏勅傅名諸勅	416	左中弁兼内蔵頭勅原朝臣佐理	
0974.12.18	天延二年十二月十八日	17	仏事下 付法僧	傅名諸僧		傅名中弁兼摂勅原朝臣佐理	左中弁兼摂勅原朝臣佐理	内裏勅傅名決第	417	左中弁兼内蔵頭勅原朝臣佐理	
0975.04.23	天延三年四月廿三日	15	陪膳道	日月勅		日月上大臣書		陪膳受賀茂朝臣勅書	375		従五位下行摂津大国部忠矩等正月一日解状
0975.08.13	天延三年八月十三日	3	文事下	祭文		右大臣源兼明母亀山神文	前中書王	敬亀山神文	54	右大臣源兼明	「公卿補任」によれば、源 兼明は天延二年（971）十一月二日任左大臣元大納言 である
0976.01.01	天延四年正月一日	3	文事下	藤原明子山部謙子息申文		藤原明子山部謙子息申文	源雄作	陸奥国天恩院為前例修博所寄房、令宮右少弁信時朝臣加一階位	253	源雄	左大臣藤原師尹女明子 藤原時平第陸奥国 長子佐時 次子佐理 少子延喜令信明朝
0976.09.19	貞元元年九月十九日	2	文事中	願文		源兼明供養自筆法華経願文	前中書王	供養自筆法華経願文	30	参子左大臣皇太子傅源朝臣兼明	朝頼天皇皇子 皇貞元二年四月朝（朝頼天皇）によって左大臣から親王へもどされる
0977.09.30	貞元二年秋	1	文事上	行		行	僧 文時	行	21	紀斐文時	「本朝文粋」所収 「貞元二年秋、予為八十」
0979.01.31	天元二年正月	7	携 東	遠執政		三善道統申状	従五位上行勘相由次官三善朝臣道統	陸統特要恩勅改為氏例、華速所官右衛門権佐関状	185	従五位上行勘相由次官三善朝臣道統	
0981.10.10	天元四年正月十日	7	携 東	補勅字院別当		勅字院別当補任長者宣	別当藤在衡中将藤原朝臣懐忠		190		大政大閣は開白太政大臣従一位藤原朝臣師忠
0982.08.13	天延五年八月十三日	20	異國	東大寺縁起		東大寺 奈良縁起		日本国東大寺縁 大唐貴陸寺	462		僧侶大法師位 奈良深
0985.01.29	永観三年正月廿九日	16	仏事上	補僧綱新官符		補僧綱補任官符	左大史多米宿禰	僧都大法師位覚忠宣任権律師	412	左少弁藤原	正三位行大納言兼参議右衛門督藤原朝臣実頼
0985.02.01	永観三年二月一日	16	仏事上	補別当		補三部阿闍梨位官宣旨	左大史大多中目朝臣	豊為阿闍梨僧都法師位元慶事	412	右中弁菅原朝臣	正三位行中納言兼民部卿藤原朝臣天暦宣
0986.02.25	寛和二年二月廿五日	7	公卿家	中民所寄敷状		中民所寄状		陸奥押中原安親状小倉敷王朝不動	203		兼明親王 是元二年4月用勅為親王相二品12月任中務卿 寛和二年正月廿五日辞職
0986.07.20	寛和二年七月二十日	2	文事中	願文		願文	慶 保胤	表安恵勅願文	40	慶滋保胤 沙弥心覚 法名慶心	慶滋保胤は慈福寺賀恵の弟 「浄土往生伝」「日本往生極楽記」の作者
0986.11.20	寛和二年十一月廿日	7	携 東	摂政家印書		摂政家印書	別当民部大法師原為信寄	印書法勅学院	179		大政大臣従一位藤原朝臣相忠宣 鎮前摂政田庄 理原朝臣（中納言朝臣男力）
0987.02.16	寛和三年二月十六日	17	仏事下 付法僧	僧侶請状		慈恵僧侶勅書		故大僧正良源聞見、証日恵恵	425		
0988.06.02	永延二年六月二日	16	仏事上	停止僧綱凡僧多事第子		僧綱凡僧法式奉法等停止官符	正五位下行左史美濃中種介大春日朝臣	恵停止僧綱凡僧奉法法式多事第子是子事	414	正四位下右大弁藤原朝臣	左大臣従一位実頼摂政（摂字多国氏）宣 藤原道長登殿同時子文
0989.01.30	永延三年正月	8	除書	任国勅授状		任国勅授状	任国勅授状	任国勅授状 伏 従五位下行左大史小倉朝臣敬	209		左大臣藤原伊尹母
0989.04.25	永延三年四月廿五日	16	仏事上	補天台座主官旗		東光寺座主補任官旗	正五位下行左大史美濃中種介大春日朝臣	恵補座主補少僧都法仁師道修事 僧都大法師位良覚	410		権中納言従三位兼行右衛門督藤原朝臣道長宣
0989.09.28	永延三年九月廿八日	16	仏事上	補法務官符		東寺法務知行官符	正五位下行左大史美濃中種介大春日朝臣	恵令補大僧都法師和尚位及義兵知行法務事	410	正四位下右大弁藤原朝臣有国	左大臣従一位実頼摂政（摂字多国氏）宣
0990.02.23	永祥二年二月廿三日	9	功労	丹後国司解		丹後国司解	左中弁藤原朝臣佐理	丹後国弾名次第宣	247		丹波直藤子解
0990.03.25	永祥二年三月廿五日	16	仏事上	補天台座主官旗		東寺法務知行官旗	左少史宮原朝臣	諸補法務知行官旗	410	従四位下右中弁兼美濃守土佐国守藤原朝臣忠親	正二位行大納言兼右大将藤原朝臣実方
0992.07.28	正暦三年七月廿八日	7	携 東	補外典稲荷本		摂政家印	左大史多米朝臣	摂政家印 興福寺	179	別当前紀伊守藤原朝臣	摂政藤原朝臣道隆
0994.02.17	正暦五年二月十七日	7	携 東	開白御願寺申文		開白御願寺申文	作者源俊	以穢善申為御願寺	180	大江朝白藤原朝臣道隆	先公入道太政大臣は永祥二年従一位摂政太政大臣で5月8日入道7月2日薨去の父兼家
0995.05.11	長徳元年五月十一日	7	携 東	内覧宣旨		内覧宣旨	左大史小槻奥時奉	内覧宣旨 入道殿、大殿、大将殿	174	左大史小槻奥時奉勅	権大納言藤原朝臣道長 権大納言藤原朝臣伊周
0995.08.01	長徳元年八月一日	5	朝儀下	月食		鹿人陰珠正六位上橋朝臣	鹿人所	鹿人陰珠正六位上橋朝臣則夫	118	鹿人正六位上橋朝臣則夫	正六位行主計権助橘朝臣
0995.08.01	長徳元年八月一日	5	朝儀下	月食		海口月食	鹿人所 海口		118	鹿人所 海口	
0995.08.01	長徳元年八月一日	5	朝儀下	月食		小倉人月食	出納正六位上惟宗朝臣	鹿人所 小倉人	118		別當右大臣従二位藤原朝臣道長
0996.08.09	長徳二年八月九日	4	朝儀上	定女御宣旨	定女御	定女御宣旨		定女御	80		陸奥進士「紀略」長徳二年八月九日条に「より正三位女納言藤原公季女義子
0997.08.15	長保元年八月十五日	13	紀伝	試策問官職		紀文章生試策問官職	従五位下行大内記美越守橘守紀朝臣	紀文章生 詩題問	337	文章博士大江朝臣匡衡	大政大臣藤原朝臣道長宣
0998.12.09	長徳四年十二月九日	3	文事下	祭文		大江匡衡祭田宣祭文	大江匡衡	熱田宮祭請奥摩周明春得中所望状	56	大江匡衡	大江匡代々の男子を孫子、男摩周の補藤人を願う
0999.04.24	長保元年四月廿四日	9	功労	中最勝寺		藤原在國参議申文	前勘解由長官従三位藤原朝臣在国	請特要清慈、徳大寺殿入頭勘解由長官労仕参議状	234	参議陸正三位太常大式兼陸正大弾藤原朝臣有国	藤原在国は従三位参議陸正大弾
1000.03.30	長保二年三月	6	太政官	中最過状事		東市佐大江某過状	東市佐	東市佐大江某解 中最過状事	166		（平多源氏）権大納言従二位按察使兼中宮大夫大源朝臣時中宣 大外記高助敦清源朝臣
1000.04.17	長保二年四月十七日	4	朝儀上	定親王宣旨	定親王	定親王宣旨		定親王	80		陸奥国王「紀略」長徳二年四月十七日条に「より定親王」
1001.03.04	長保三年三月四日	27	異國	中下道路度之道定令行交替政		豊後守六大愛敬行文替政申文	豊後守	中下道路度 加前司陳状	446	豊後守外従五位下六大宿禰愛敬	前司丹波朝臣泰親 「不雑大武藤原朝臣吾貴、造仁八原」の大武は藤原吾貴の二とか
1001.04.02	長保三年四月二日	20	大宰府 付管轄	誕度之道前所議状		前豊後守丹波泰親所交替政議状行	前豊後守	所申未事任国事管参上状	446	前豊後守外従五位下丹波朝臣泰親	右大臣藤原朝臣師尤宣 右大臣藤原朝臣行成傳宣